# 淀川愛好会 YODORIC NEWS

**No.115** 2026年9月発行

## 〈 社会人の窓35 〉

### 淀川愛好会30年の歩みを振り返って

**澤井健二**

淀川愛好会は今年で設立30年を迎えます。本会は、1997年４月に、摂南大学大学院社会開発工学専攻の大学院生および土木工学科澤井ゼミの学生達をメンバーとして設立された学生サークルで、当時の２号館１階にあった水工学実験室を拠点として、カヌーやボートを用いた淀川での親水活動や河川敷の清掃活動を始めましたが、同年秋には、メンバーを学内外に広げた市民サークルにするとともに、活動内容も淀川流域内の市民活動をつなぐものへと拡大しました。奇しくも1997年は河川法が大幅に改正されて、治水、利水に加えて環境保全が河川管理の目的に加えられるとともに、河川整備計画の策定にあたって、住民の意見を反映させることが明文化された年で、淀川愛好会の設立は、まさに時宜にかなったものであったと言えましょう。

役員の変遷　(敬称略)

会長：井上治 → 久保勝司 → 海老瀬潜一 → 頭井洋 → 道廣一利 → 澤井健二 → 伊藤譲

副会長：今堀浄・綾史郎

総務：澤井健二 → 石田裕子

名誉顧問：藤田進　顧問：井上治 → 道廣一利

相談役：澤井健二

淀川愛好会の活動を特徴づける大きなツールとなってきたのは、Eボートです。2002年には、立命館大学とチームを組んで全国Eボート大会に出場し、Eボート大使の称号を受けています。

Eボートは1995年にシンプルな水辺の交流のためのツールとして、地域交流センターによって開発され、1998年には全国Eボート連携協会が設立されるまでになりました。淀川愛好会ではさっそくそれを購入し、地域イベントに導入したところ、大きな効果を発揮し、以後、近畿における水辺環境再生市民運動のけん引役として、多くの行事を開催してきました。その中で中心をなしたのは、近畿水環境交流会（2004年までは淀川流域水環境交流会）です。この行事は、1999年から毎年７月末か８月初の土曜日と日曜日の２日間にわたって近畿のどこかで、シンポジウムとEボートレースを行ってきたもので、2019年まで続きました。

淀川愛好会独自のイベントとして中心をなしてきたのは、毎年２月末の土曜日に摂南大学構内で開催してきた淀川討論会です。

もう一つ、淀川愛好会が設立当初から継続してきた活動として、年４回の機関誌Yodoric Newsの発行があります。初期の頃は、３ケ月毎のイベント報告とイベント案内が中心でしたが、15年を迎えた2012年のNo.57から、会員の窓の欄を設け、社会人会員と学生会員に毎号１人ずつ寄稿をしていただきました。さらに、2018年のNo.81からは、会員の窓を社会人の窓と学生の窓に分け、会員以外も含めた社会人と学生の方にそれぞれ１名ずつ寄稿をお願いするようになっています。2021年のNo.93からは、書籍紹介のコーナーを常設しました。ニュースの編集は当初は総務が単独で行っていましたが、2012年度からは石田ゼミの学生編集員を加えた編集部を設けるとともに、相本太刀夫先生に編集長になって頂きました。その後、2018年のNo.84からは岡崎善久先生に編集長をお願いして、現在に至っています。なお、Yodoric Newsのバックナンバーは、広報担当の熊谷樹一郎先生のお手を煩わせて、1998年のNo.１からすべて、淀川愛好会のホームページに掲載していただいています。

淀川愛好会のキャッチコピーとしている“活かそう水辺、つなごう流れ”は、1999年の琵琶湖・淀川流域水環境交流会の呼びかけに際して作成したもので、活かそう水辺は水辺を活用するとともに、人間をも含めた水辺の命を大切にしたいという願い、つなごう流れは上下流や対岸等の空間をつなぐとともに、市民と行政や、異分野など、立場を超えたつながり、さらに世代間を越えた文化の継承を願うものです。愛称YODORICはYodo River Clubの頭文字をつないだものです。ロゴマークは琵琶湖・淀川水質保全機構のBYスタンプラリーに登録したマークの下の部分を会の英文名に変えたものです。

（淀川愛好会相談役）

# お知らせ

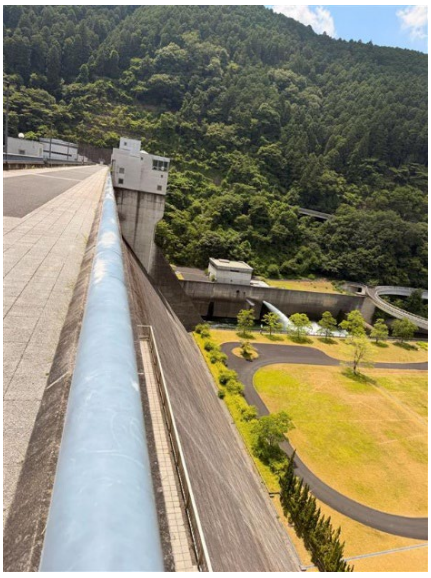
## 「故　佐藤大作先生遺児育英募金」のご報告

佐藤大作先生遺児育英募金に関しましては、多くの皆様より温かいご賛同とご協力を賜り、発起人一同、厚く御礼申し上げます。淀川愛好会会員を含め、98 の団体・個人の皆様から募金をお寄せいただきました。ここに発起人一同としてご報告申し上げますとともに、ご賛同いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。　（石田 裕子）

# イベント報告

## 日吉ダム見学

７月25日（土）、研究室の活動として京都府南丹市にある日吉ダムを見学しました。日吉ダムは、洪水調節だけでなく、河川環境の保全や農業用水の安定供給、水道用水の供給など、複数の目的を持つ多目的ダムです。総貯水容量は約6600万$m^3$で、そのうち約5800万$m^3$が有効貯水容量となっています。特に洪水期には約4200万$m^3$を洪水調節容量として確保し、大雨の際に流入した水を一時的に貯留することで、下流への流量を調節しています。一方で、利水容量を活用して水道用水などを安定的に供給しています。今回の見学では、ダムの内部や放流設備などを実際に見学し、治水と利水の両面からダムが果たす役割について学ぶことができました。



**ダムの堤体より見た景色**

（三宅 雄大）

## 淀川十三干潟内の水路調査

８月６日（木）10時から13時に、石田ゼミの学生と院生で大阪市淀川区淀川河川公園近くで、生物調査と環境調査を行いました。これは卒業研究として水路内の生物相の現状を把握するために行っています。この調査は年４回行われており、去年から続いている研究になっています。この日の最高気温は、36℃と猛暑日の中の作業となりました。熱中症の危険もあったため、しっかり水分補給をしながらの作業を行いました。また、その日は満潮と重なり水位も高くなり作業のしにくい中ではありましたが、ハゼの稚魚と、クロベンケイガニを見つるけることができました。暑い中ではありましたが、夏の干潟の現状を把握することができました。



**干潟の調査の様子**

（松本 裕輝）

## 天若湖アートプロジェクトのロープ作り

６月27日（土）、摂南大学にて石田ゼミとPBLの学生で、日吉ダムで行われる天若湖アートプロジェクトで使用するロープの準備を行いました。

当日はエコシビル部のメンバーは参加できませんでした。そのため、８月23日（日）にエコシビル部の部員のみでロープ作りを行いました。実際に作業をしながらロープの作り方を学ぶことで、技術を次の学年へ引き継ぐことが出来ました。

このロープは湖面で集落の家並みを再現するあかりを取り付けるために使用する予定です。



**作業の様子**

（豊田 加奈）

## Eボート体験会

7月12日(日)に寝屋川市駅前のせせらぎ公園でEボート体験活動を行いました。街の方々とエコシビル部の部員がEボートに乗り、部員がパドルの漕ぎ方や周囲の河川の状態などを解説しながら寝屋川を下りました。前日まで昼から雨の予報だったのですが、当日はそのような予兆も一切なく、綺麗な空の元、Eボートを運行することができました。特に大きな問題もなく、参加者の方々、今年入部した部員も笑顔が多くとても良い活動になりました。



**活動の様子**

(石川 紡)

## 琵琶湖Eボート体験会

8月1日（土）に、琵琶湖（近江舞子）でエコシビル部のOBの方々とEボート運航兼ライフセーバーの活動を行いました。エコシビル部では珍しい泳ぐ活動を楽しみながら、OBの方々からエコシビル部の歴史の話を教えて頂きました。琵琶湖に遊びに来ていた方々と交流を行い、Eボートも、ただボートとして運用するのではなく、あえて裏返して坂道のようにし、子供たち専用の飛び込み台のような使い方もしました。サップに乗る機会があったので乗ったところ、全然上手く乗れなかったので、次はリベンジしたいです。



**活動の様子**

(石川 紡)

# イベント案内

## 稲むらの火の館と白良浜歌碑巡りバスツアー

日時　2026年9月27日（日）　9時～18時
行程　9時　京阪電車中書島駅改札前集合
11時半　稲むらの火の館着
11時半～　稲むらの火の館見学及び昼食
13時　稲むらの火の館発
14時　白浜白良浜駐車場着
14時～　白良浜付近にある歌碑・句碑見学
15時　白浜白良浜駐車場発
18時　京阪電車中書島駅改札前解散
参加費　無料　（ただし昼食代は各自払い）
定員　22名
問合せ先　京都水辺保全ネットワーク会長　澤井健二
090-2196-9594　kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp

## 淀川まるごと体験会 2026 夏

日時　10月4日(日)午前9時30分～正午（雨天中止）
会場　淀川河川公園点野野草地区・ワンド周辺
プログラム　Eボート、カヌーなどの水辺体験
自然の素材を使ったクラフト体験
堤防決壊モデル実験
浸水道路歩行体験
防災啓発コーナー
パネル展示コーナー
自然観察会（秋の虫を探そう！）
主催　淀川まるごと体験会2026実行委員会
参加費　無料

## 天若湖アートプロジェクト2026

日時　11月8日（日）
場所　日吉ダム(天若湖)周辺
主催　天若湖アートプロジェクト実行委員会
参加費　無料

## 2026年茨田イチョウまつり

日時　11 月22日(日) 13時～15時(雨天中止)
場所　茨田樋遺跡水辺公園
淀川左岸幹線水路
参加費　無料

〈 学生の窓 35 〉

## エコシビル部の活動

石川 紡

エコシビル部では普段からよどがわ河川レンジャーの方々と点野緑陰付近の整備活動を行っています。その他にも、春秋に行う丸ごと体験会、秋に行われるいちょう祭りなど、様々なイベントに、E ボートの運行という形で参加しています。

去年の3年生引退でかなり人数が少なくなってしまいましたが、今年は勧誘活動に力を入れ、積極的に活動の楽しさを伝えました。その結果、沢山の新入部員が入部しました。部員同士も学年の壁を超えて仲が良く、協力出来るとても良いチームになっています。



寝屋川での河川清掃の様子



点野砂州での草刈りの様子

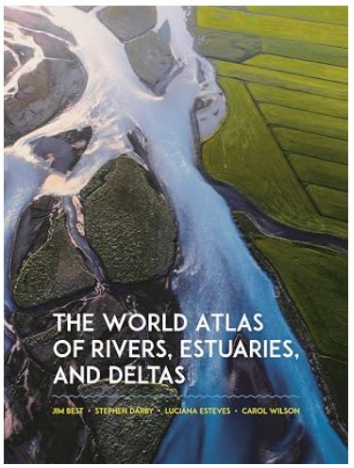
(摂南大学文化会エコシビル部部長)

## 書籍紹介

書名： 世界の河川 地球科学大図鑑
(英語版名：The World Atlas of Rivers, Estuaries, and Deltas)
著者： ジム・ベスト／スティーヴン・E・ダービー／ルシアナ・S・エスティヴェス／キャロル・A・ウィルソン
日本語版監修：藤岡換太郎 訳：中川泉
発行：河出書房新社 (英語版 Princeton Univ. Pr.)
A4版400ページ（写真223点、衛星写真68点、地図117点、図解イラスト75点、グラフ29点）
日本を含めた世界中の河川を、さまざまなテーマから分析し、過去と現在、未来の観点からまとめた図鑑で、河川のしくみ、構造、生態系、生物多様性、人類との関係など、多角的な視点から分析し、専門的な紹介と解説も含め、平易で丁寧な表現で記述されています。

第１章：河川、河口、三角州の世界 第２～５章：河川のしくみ、構造、生態系と生物多様性、河川と人類 第６～９章：河口のしくみ、構造、生態系と生物多様性、河口と人類 第10～13章：三角州のしくみ、構造、生態系と生物多様性、三角州と人類 第14章：未来の河川、河口、三角州




## 編集後記

淀川愛好会三十年の歩みを振り返ると、澤井健二相談役や石田裕子氏の二人が、担ってきたそれぞれ異なる時間の中で重ねて来られた歩みと、そこに共通して宿る責任の重さの両方に対して、会員の皆様はあらためて深く敬意を抱いていることと思います。長きに渡って淀川愛好会を育ててきた澤井健二相談役が学生たちに会の歴史を丁寧に語り、挨拶されていた姿が思い起こされます。

「社会人の窓」をあらためて読み直して、そこに刻まれているのは、単なる「三十年」ではなく、「歴史の時間の重さ」や「河川活動を続けていくこと」の難しさです。家の活動は、清掃だけでなく、防災の地域づくり（まちづくり）これからが必要とされる、川の活動です。自然を守るために水質確認、生きもの調査、ゴミ拾いなどの活動が今後も重要です。行政だけでなく、住民団体や企業と連携した河川管理が必要とされています。

編集長　岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP： https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/　E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp